

## 「通航一覧（琉球国部）」の情報化

鶴田 啓（東京大学史料編纂所）

「通航一覧」は、江戸幕府が、欧米諸国接近の圧力を感じるなかで、幕初以来の外国応接の歴史を明らかにするために編纂した大部の外交史料集である。正編冒頭には、総裁林復斎（諱は光+章：あきら）のほか、編纂者として宮崎成身（なりちか）ら12名の名がある。永禄九年（1566）安南船の漂着記事から文政8年（1825）の異国船打ち払い令までを扱った正編は嘉永3年（1850）から同6年にかけて編纂され、巻数は345巻（附録23巻とも）。続いて続編が編纂され、安政3年（1856）ころ178巻（附録26巻とも）が完成した。

編者は、「海口に事有り、急遽応接の際、輒やかに此の編に就き、以てその体例を求むれば、一覽瞭然、遺漏有る靡し、則ち何ぞ唯だ言語文辞の次を失はずに叙するのみならん、実に国体を辱めざる者の存する有るなり（海口有事、急遽応接之際、輒就此編、以求其体例、一覽瞭然、靡有遺漏、則何唯言語文辞之不失次叙也、実有不辱国体者存焉）」（正編序）、「異国の来往其関係する所、実に容易ならず、是本編の在ところなり」（同凡例）と、外国との交渉における典拠史料の重要性を強調している。編纂に際して利用した史料は、おおむねまとめられた史料集や記録に限られている（ただし幕府発給文書については直接控を利用している場合もある）が、史料の取り扱いには概して客観的・実証的とされており、現在でも近世対外関係の基本史料集の一つとして利用されている。

その構成は、基本的に、まず国別・テーマ別（正編の場合、琉球国部、朝鮮国部、長崎港商法総括部から始まり海防部に至る）に大きく分けた上で、それぞれの中いくつかの区分を設定し、該当する記事を年代順に配列する形式になっている。各記事は、編纂作業の結果確定・取捨選択された事実関係を簡略に記した一種の見出しである「本文」と、その典拠史料を掲げた「考証」から成り、場合によっては編纂者の意見を注記した「按注」が加わる構成になっている。

利用に際しての基本的な留意点としては、(1)広義の対外関係に含まれることがらでも、幕府に直接関わらない部分（たとえば、対馬藩と朝鮮の関係や薩摩藩と琉球の関係など）にはほとんど触れていない。(2)編纂に際して利用した史料は、おおむね幕府の文庫内にあった史料集や記録に限られ、内外の史料を博搜しているわけではない。(3)新井白石の「折りたく柴の記」が「新井氏筆記」の名前で利用されているなど、現在とは史料名が異なる場合が多い、などをあげることができる。

これまで一般に「通航一覧」は、正編については国書刊行会から刊行された活字本（1912～13年）、続編については箭内健次氏が校訂した活字本（清文堂、1968～73年）が広く利用されている。ただし正編については、刊本の時期が古いこと、誤植と思われる箇所や挿し絵を省略した箇所が少なからず存在する。ここでは、科学研究費・重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」により、琉球国部に限っては、明治初年に外務省が献上本から作成した写本（現在史料編纂所蔵。正編活字本の底本でもある。）をもとにデータ入力と写真撮影を行い、テキストデータとイメージデータの両方を利用できるようにした。

なお、「通航一覧」の編纂・成立にかんしては、最近では木崎弘美氏の研究（木崎『『通航一覧』の編纂と伝来に関する考察』『海事史研究』47、1991年、同『『通航一覧』の書誌学的考察』同前49、1992年）がある。

#### 【凡 例】

##### [ 底本 ]

底本には、テキスト・イメージとも現在史料編纂所が所蔵する「通航一覧」の写本(外務省引継書類1026・1027)を使用した。これは、明治初年に外務省が献上本から作成した写本で、国書刊行会本(正編)の底本にもなっている。

原本の1巻を1ファイルとした。なお、原本の多くは2巻で1冊になっている。原本にあるルビは( )書きで対応する語の後におき、割註は「」書きで示した。詩曲などの全文にルビがつけてある場合、漢字とカナの位置は必ずしも対応していない。

原本に図がある箇所は「図あり」と表記した。

JISコードにない漢字は≡(ゲタ)で示した。

##### [ 記号 ]

テキストデータの中で使用している記号類の意味は下記の通り。

「通航一覧」本文の始まりを示す。

引用史料の始まりを示す。

引用史料名の始まりを示す。

原本にある 印をそのまま入れたもの。

##### [ イメージデータ仕様 ]

イメージデータの仕様は以下の通り。

A3換算400dpi

TIFF2値化、G4圧縮(最大1画像100KB程度)

TIF形式ファイルが読めるソフトが必要。

##### [ 原本とファイルの対応 ]

原本の冊次・巻次とテキスト・イメージデータのディレクトリ名・ファイル名との対応は以下の通り。

冊 巻	内 容	テキストファイル	イメージディレクトリ
正編			
1 序・総目次	序と全巻の総目次	sei01.txt	sei01
2 巻一琉球国部一	平均始末	sei021.txt	sei02
巻二琉球国部二	平均始末	sei022.txt	
3 巻三琉球国部三	中山王来朝	sei031.txt	sei03
巻四琉球国部四	中山王来朝	sei032.txt	

4	卷五琉球国部五来貢	寛永十一年・正保元年	sei041.txt	sei04
	卷六琉球国部六来貢	慶安二年・承応二年	sei042.txt	
5	卷七琉球国部七来貢	寛文十一年	sei051.txt	sei05
	卷八琉球国部八来貢	天和二年	sei052.txt	
6	卷九琉球国部九来貢	宝永七年	sei061.txt	sei06
	卷十琉球国部十来貢	宝永七年	sei062.txt	
7	卷十一琉球国部十一	来貢 正徳四年	sei07.txt	sei07
8	卷十二琉球国部十二	来貢 正徳四年	sei081.txt	sei08
	卷十三琉球国部十三	来貢 享保三年	sei082.txt	
9	卷十四琉球国部十四	来貢 延享元年	sei091.txt	sei09
	卷十五琉球国部十五	来貢 宝暦二年	sei092.txt	
10	卷十六琉球国部十六	来貢 明和元年	sei10.txt	sei10
11	卷十七琉球国部十七	来貢 寛政二年	sei11.txt	sei11
12	卷十八琉球国部十八	来貢 寛政八年	sei121.txt	sei12
	卷十九琉球国部十九	来貢 文化三年	sei122.txt	
13	卷廿琉球国部廿来貢	文化三年	sei131.txt	sei13
	卷廿一琉球国部廿一	薩摩国来貢、御手当、貿易他	sei132.txt	
14	卷廿二琉球国部廿二	唐国往来	sei141.txt	sei14
	卷廿三琉球国部廿三	唐国往来	sei142.txt	
15	卷廿四琉球国部廿四	漂着、漂流他	sei15.txt	sei15

#### 続輯

1	卷一琉球国部一来貢	天保三年	zok01.txt	zok01
2	卷二琉球国部二来貢	天保三年	zok02.txt	zok02
3	卷三琉球国部三来貢	天保十三年	zok03.txt	zok03
4	卷四琉球国部四来貢	嘉永三年	zok04.txt	zok04

#### テキストデータ・イメージデータ利用上のご注意

- (1) このデータは、史料編纂所所蔵の写本「通航一覧」をもとに、重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」科学研究費の一部を使用して作成しました。
- (2) 学術研究目的での利用を前提に公開しています。
- (2) 論文や著書など、研究成果の発表にこれらのデータを利用したときは、利用の旨を明記してください。
- (4) 図版掲載や史料翻刻の場合には、別途史料編纂所の許可を得てください。
- (5) 出版等申請の担当掛は「東京大学史料編纂所図書運用掛」です。

住所 東京都文京区本郷7-3-1 / TEL 03-3812-2111 内線5961

/ FAX 03-5800-3901